

アイリス Letter

保護者の皆様へ



2024年12月20日発行
第4号
広島女学院中学高等学校

<聖書のことば>

天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそが主メシアである。」

ルカによる福音書 2章10・11節

12月20日に、2学期終業の日を迎えました。中学、高校のクリスマス・終業礼拝があり、夕方には、女学院クリスマスがあります。18日には、中学讃美歌コンクールがあり、22日には、第38回クリスマスコンサート・メサイアがあります。このすべてが、ゲーンズホールで行われます。ゲーンズホールは、礼拝堂です。こんなにたくさんの人々が、ゲーンズホールで主イエスの降誕を祝い、その喜びに恵まれることはなんと素晴らしい事でしょう。感謝があふれます。生徒のみなさんは、大きな喜びを感じることができたでしょうか。讃美や祈りを通じて、2学期の歩みを覚え、感謝することができるとうれしいです。

さて、2学期はたくさんの活動がある学期でした。今はクリスマスらしく寒さが厳しく、あの夏の暑さが思い出せないくらいですが、9月からの暑い毎日の中で2学期はスタートしました。中2のチャレンジキャンプを経て、10月の学年行事、11月の文化祭、キリスト教強調週間。そして今、クリスマス行事と学校行事も次々とありました。生徒一人ひとりにとっては、クラブ活動などそれぞれが大切にに取り組む事はすべてが新しい事への挑戦であり、振り返れば成長ですが、その最中はきつい毎日であったのではないかと思います。特に高校3年生のみなさんは、卒業後の進路実現に向けて貴重な一日一日を過ごしてきたと思います。それが実りへと続くことを祈ります。

聖書のことばにありますように、クリスマスはわたしたちすべての人への神様からのプレゼントです。ご家庭でも、皆さまが大きな喜びと平安のときが与えられますように、心よりお祈りいたします。

(校長)



キリスト教強調週間 (11/11～16)

主題「志をつなぐ」、主題聖句ルカによる福音書 10 章 37 節「そこで、イエスは言われた。『行って、あなたも同じようにしなさい。』」のもと、11 月 12 日は通常の授業に替えて、主題講演と学年ごとの特別プログラムが実施されました。

主題講演講師の藤田千代子さんは鹿児島出身で徳州会病院（福岡市）での勤務を経て、1990 年 9 月に当時中村哲医師の赴任先であったパキスタン・ペシャワールのミッション病院へ看護師として赴任されました。以降、医療活動を始め、井戸堀り、食料配給、その後の用水路事業など、一貫して中村医師の現地活動を支えてきました。1998 年日本の寄付でペシャワールに建てられた PMS 基地病院（総院長・中村哲）では、院長代理の責務を果たしました。2009 年には現地の治安悪化のため退避帰国し、現在ペシャワール会 PMS 支援室室長および PMS 総院長補佐として、現地活動を支えています。特に 2022 年にはフローレンス・ナイチンゲール勲章を受賞され、その活動が評価されました。



今回の講演で藤田さんは、中村哲さんとの活動やアフガニスタンの現状について語っていただきました。日本に住む私たちは、アフガニスタンの現状についてほとんど何も知らないということを思い知らされました。中村哲さんは常に「可能性を感じるなら、やってくれ」と言われ、実際に行動を起こす方だったそうです。藤田さんのお話を聞いた私たちは、様々な文化を持つ人々が生きるこの社会で、隣人と共に生きる方法を模索し、イエスさまが教えられた「行って、同じように」行動していかなければならないと思われました。

学年別活動では、「志をつなぐ」というテーマで、社会のさまざまな分野の講師の先生との出会いや具体的実践活動を通して考える時間を持ちました。

週間中の生徒の委員会企画では、高校は、高 1 企画で、「讚美歌イントロドン」を実施し、放送室から宗教委員の歌声をお届けしました。高 2 企画は「聖☆おにいさんを見よう 2」、高 3 企画ではキリスト教に絡めたインタビューを先生方に行い、その内容を教室に掲示しました。中学では、先生企画の「行列のできない女学院なんでも相談所」が平和を祈る週に続いて行われ、今回も大勢の生徒の行列ができました。また礼拝委員による企画では、中 1 による女学院の先生方をテーマとした「the 座談会」が行われ、中 2 企画では「讚美歌イントロドン」が行われ、各クラスを盛り上げました。さらに中学校舎内には「女学院と志」をテーマとした各クラスの作品の展示会が上空通路で行われました。その中には各クラスの作品と共に、先生たちの志が記された作品も展示され、大勢の生徒が立ち止まっていました。



16 日（土）の閉会礼拝では、各学年から 2 名ずつキリスト教強調週間を通しての感想を発表し、それぞれが得たものを分かち合



い、女学院の豊かさを再び共感することができました。講演録や代表生徒の感想は年度末発行の冊子『ガリラヤの風』にてご報告します。

最後に、中村哲さんの志をつなぐペシャワール会の活動支援のため、募金活動も行われました。アフガニスタンやパキスタンで助けを必要とする隣人のために、用いられます。

(宗教教育委員会)

2024 年度文化祭

11月3日(日・祝)に中高合同文化祭が開催されました。今年は、13年ぶりの2日間開催の予定で準備を進めていましたが、2日は大雨のため臨時休校となりました。2日間開催とした目的は、第一に、来校者・生徒ともにゆとりのあるなかで文化祭を楽しめるようにすること、第二に、生徒同士が発表を見て、お互いに認め合えるような機会を作ることでした。2日(土)の午前中は、中学・高校それぞれ約90分間の開会式のなか



お客さんと楽しむ「VS女学院」

で部活動2団体の公演を鑑賞する予定で、楽しみにしているという声が生徒たちから多く聞かれていました。また、午後はホールのみを一般公開とし、校内は在校生が一般公開に先立って発表を楽しむ予定としていました。楽しみにしていた2日の内容は実現することができませんでしたが、翌3日は秋晴れに恵まれて、文化祭を行うことができました。

来校者数は約3,800名。昨年より入場者を抑えたことにより、落ち着いた雰囲気の中、ゆっくりと発表を見て回ることができました。ホールでは文化部が、これまでの練習の成果を披露していきます。グラウンドでは、高校運動部が模擬店をしており、お客さんを呼び込む声が響き、活気にあふれていました。体育館では、中学運動部の公開試合が行われ、得点のたびに歓声が上がっていました。1年C組・E組の「縁日」では、射的や輪投げなど手作り



中学理科部化学班の実験のようす

り感あふれる楽しいゲームで来場者をもてなしていました。そこには多くの生徒・来場者の笑顔がありました。また、めずらしい発表内容としては、1年D組はカジノ、2年A組は占いを発表しました。高校生が、カジノではディーラー、占いでは占い師に扮します。お客さんを相手に堂々と案内する高校生の姿に、中学生は憧れを抱いていました。文化祭には、日ごろの学びの発表も多くあります。中学生・高校生が授業で作った作品の展示や海外研修での学びを発表している教室がありました。

また、今年は数年ぶりに「あやめ賞」を復活させました。HR発表部門では2年C組・E組のおばけ屋敷、部活動(教室発表)部門では高校美術部が栄光に輝きました。

2日に発表を予定していた中学マンドリン部、中学演劇部、中高吹奏楽部、高校ダンス部は、後日の放課後に振替公演を行いました。発表が2週間延びた団体もありましたが、よりよいものを目指して練習を続け、どの団体も素晴らしい発表をしてくれました。客席からのアンコールに応えるなど、アットホームで和やかな雰囲気の中での発表となりました。

末筆となりましたが、保護者のみなさまの多大なるご支援・ご協力のもと、文化祭を終え

ることができました。この場を借りて、お礼申し上げます。ありがとうございました。

(生徒会顧問)

高校スピーチ&プレゼンテーションコンテスト

11月19日にゲーンズホールにて、高校生によるスピーチ&プレゼンテーションコンテストが行われました。高校1・2年生合わせて8名がそれぞれのトピックでスピーチとプレゼンテーションを行いました。準備期間も短い中ではありましたが、どの発表も内容が興味深く、堂々としていて素晴らしいものでした。また、本校に勉強に来ている留学生2名も平和について日本語でスピーチをしました。平和について自ら考えていることを日本語で力強く語る姿は、聞く者に感銘を与えてくれました。

また、発表者以外にも、MCとしてコンテストの進行役を多くの生徒たちが務め、最初から最後までコンテストの運営を支えてくれました。執行部、そして音響や吹奏楽の生徒の皆さんの助けもあり、無事にコンテストを行うことができました。協力していただいた全ての方に感謝いたします。

優秀賞	2-B	K. K
	1-E	S. M
生徒投票1位	2-B	K. K
	1-B	A. S



(英語科)

冬休みの過ごし方について

今年も終えようとしていますが、冬休みの過ごし方については、別に配布している「冬休み中の注意事項」を必ずご確認ください。

また、以下の点にお気をつけください。

①生活習慣について

- ・冬休み中も「起床時間」・「勉強開始時間」・「就寝時間」の3点は固定させることが重要です。
- ・長期休暇に入りますとスマホ・PCの時間が増える傾向にあります。使用する場所や時間などをよく考え、依存に陥ることのないように気をつけてください。

②ネットとの付き合い方について

長期休みは在宅する時間が長くなるので、ネット依存や昼夜逆転の危険性が高まります。冬休みのネット依存が3学期の学校生活に大きな影響を及ぼす可能性もあります。

生徒は個人PC(chromeブック)を持っていますが、あくまで「学びの道具」です。ご家庭でも、実情に合わせてルール作成をお願いします(例えばPCはリビングで使用する、PCやスマホは勉強中に使用しない・手元に置かない等)。なお、chromeブックを長時間使用しなければならないような課題は、限られているかと思われます。

スマートフォン等でのネットとの付き合い方で、悩まれているご家庭も多いようです。様々な考え方があるかと思いますが、以下のような点がヒントになるかと思います。

- ・使用場所・時間(何時以降は使用しない、家庭学習時や就寝時はリビングに置く等)

- ・ フィルタリング、スクリーンタイムの設定（アプリごとに時間制限を設定）
- ・ ネットに触れない時間（ある時間帯、食事の時、等）を家族皆で決め家族でルールを守る
- ・ 身体を動かす時間や、趣味の時間（散歩、料理、読書など）を意識的に作る
- ・ 親子での会話の時間を意識的に設ける

なお、一方的に生徒にルールを強要するのではなく、ぜひ可能な範囲で保護者の方も共に実践なさってみてください。

また、オーストラリアでは、16歳未満のSNS利用が禁止される法律が可決されました。若年層のSNSとの付き合い方については、世界的に苦慮している現状を象徴しています。コントロールできないうちは、家庭が責任を持ちルールを定め制限する必要もあります。その際、「ネット上のやりとりでは真意が伝わらない可能性があること」、「大切なことは対面で話す方が望ましいこと」、「相手を傷つける発言は許されないこと」、「ネット上の知り合いにむやみに会わないこと」等をご家庭でもご確認ください。

トラブルとして表には出なくとも、ネット上との付き合い方が、生徒の学校生活・家庭生活に大きく影響することをご理解いただければと思います。

家族で過ごすことの多い年末年始です。ご家族内でのコミュニケーションを大切にして、よいお休みをお過ごしください。来年も宜しくお祈りします。

(生徒支援部)

保健室だより（4）

2学期は咳や喉の痛みを訴える生徒が多く見られました。12月に入り一気に寒さが強まったため、インフルエンザや新型コロナウイルスの流行が急速に拡大していく可能性があり、十分注意が必要です。また、県内のマイコプラズマ肺炎の発生数が長期化しています。これらの感染症の共通点は、いずれも「飛沫感染」という点です。「マスクの着用」や「手洗い」、「換気」等が効果的です。



マイコプラズマ肺炎は、学校感染症第三種「その他の感染症」で、条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる感染症です。一般的に、発熱や咳がひどい急性期は出席停止となりますが、期間の定めが無いので、出席停止が必要かどうかは医師におたずねください。出席停止後は、登校時に治癒証明書の提出をお願いします。

冬休みは、寒さにより朝が起きづらく、またスマホやゲームにより睡眠不足や昼夜逆転になりやすくなります。デジタル機器の使用をコントロールできるよう、ご家庭でのサポートをお願いします。3学期に元気な姿のお子さまたちにお会いできることを楽しみにしています。どうぞ、良いお年をお迎えください。

(保健室)

心の健康（4）

今年も最後の月となりました。秋に名残を惜しみつつ冬を迎え、日暮れが早く、暗い時間が長くなりました。寒さが増し、体調を崩しやすくなっています。期末テストや成績に一喜一憂し、クリスマスや年末年始の行事の多忙さに心のバランスを崩しそうです。

良いこともあります。1つ1つの体験によって子どもの自主性が育っていくことを思うと、

家庭生活の時間が長くなる冬は、親子で一緒に家事や行事を具体的にこなしていく中で、親の思いや生き方を子どもに伝えていく絶好のチャンスだとも言えます。親の姿勢に子どもはきっと家庭の中にホッとする暖かさを感じとるでしょう。そして家族と過ごしたロウソクの仄かな灯火（ともしび）のような暖かさを心の底に沈めて成長していくことでしょう。冬の家の中にはそういうチャンスがいっぱいです。

(カウンセラー)

教職員の動向

◇7月22日に数学科の増原康人先生に女兒が誕生されました。おめでとうございます。
ご成長の上に神様の豊かな祝福をお祈りします。

生徒の活躍

◇中高マンドリン部

第47回広島県中高ギター・マンドリンフェスティバル
優秀賞ならびに朝日新聞社賞

◇高校理科部 化学班

第62回広島県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞
研究内容「アントシアニンで染色した絹布の紫外線遮蔽率に関する研究」
2-E Y. K 2-A Y. R 2-A N. Y

◇3-E N. H

第101回宮島写生大会 銅賞

◇3-2 I. W

第68回広島県科学賞 中学校の部
特選 広島県教育委員会賞 日本学生科学賞へ出品
研究内容「扇風機の羽の素材・枚数と空力騒音との関係について」

◇3-3 I. A

第25大阪国際音楽コンクール（ユース部門自由曲ジュニアコース） 第1位

第38回クリスマスコンサート・メサイアのご案内

バロック音楽の大作曲家G.F.ヘンデルは音楽家として厳しい苦境にあった時、台本作家ジェネンズから救い主(=メサイア)イエスを描いた台本を提供されます。その内容に触発され、彼は驚くべきエネルギーを注いで名曲・オラトリオ「メサイア」を完成させ、以来名曲として愛される作品となりました。広島女学院ではこの演奏会を長く引き継ぎ、今年も多くの



協力者と共に中高からは高校音楽部、オーケストラグループ、保護者・教職員有志が参加します。是非お嬢様の在学中にご一緒にお聴きください。

日 時：12月22日（日）

16時30分開場、17時開演

場 所：ゲーンズホール（中高校地）

出 演：独唱 中川詩歩（卒業生）、佐々木有紀（卒業生）、下岡輝永、平田昌久

合唱 広島女学院メサイア合唱団

オーケストラ 広島女学院メサイアオーケストラ

指揮 星野晴夫（本校の前校長、現在オーケストラ同好会コーチ）

入場料：無料（チャリティー献金を行います。任意）

※託児室は設けておりませんので、小学生未満のお子様のご入場はご遠慮ください。

※駐車場はありませんので、お車での来場はご遠慮ください。

（メサイア実行委員）



今月の聖句

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」
この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

（マタイによる福音書1章23節）

クリスマス（Christmas）の語源は、Christ（キリスト）のMass（ミサ・典礼）が由来で、イエス・キリストの誕生を祝う「降誕祭」として継承されています。「降誕祭」はイエス・キリストの名前、「インマヌエル」に秘められている「神は我々と共におられる」ということを祝うキリスト教の暦であります。ここにおける「我々」とは当時の一部のユダヤ人を指すものではなく、この世に生まれた全ての人への招きであることを、神様はイエス・キリストの生涯を通じて示されました。これが「福音」の根幹であり、当時の人々への「良い知らせ」であったのです。

今年も女学院ではクリスマス礼拝が守られます。女学院の歩みを用いても神様が我々と共におられることが示され、今もなお示している神様のその御旨が、今年のクリスマスをとおしても平和を願う全ての方々へインマヌエルの喜びの光を照らすことができますように。

「天には栄光あれ、地には平和あれ。」

（聖書科K. C）

